

会長就任のご挨拶

一般社団法人 日本作業船協会 会長
廣瀬 崇



このたび、会員の皆様方のご推挙を得て、一般社団法人日本作業船協会の会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本作業船協会は、昭和33年の設立以来、国土交通省港湾局をはじめ、自治体、会員各社の皆様のご支援をいただきながら、浚渫船、地盤改良船、起重機船、海洋環境整備船など、多様な作業船に関する調査研究、設計、積算、施工管理、維持管理等に取り組み、我が国の港湾・海洋インフラ整備の発展に貢献してまいりました。

四方を海に囲まれた我が国において、港湾・海洋インフラは国民生活と産業活動を支える重要な基盤であり、その整備・維持管理を担う作業船の役割は、これからも変わらず重要なものであると考えております。

近年、世界情勢は大きく変化しており、ウクライナ情勢や中東地域を巡る緊張の高まりなどを背景として、エネルギー価格や資材価格の高騰、サプライチェーンの不安定化が世界経済に大きな影響を及ぼしております。

作業船業界におきましても、燃料価格や鋼材価格の上昇、人手不足など、事業環境は厳しさを増しております。一方で、頻発・激甚化する自然災害への対応、国土強靱化、防災・減災対策に加え、洋上風力発電をはじめとする再生可能エネルギー分野への対応など、作業船に求められる役割はますます多様化・高度化しております。

こうした中、政府においては、港湾物流や造船・海洋産業分野を成長戦略の重要分野として位置づけ、GX、DX、生産性向上に向けた取

り組みが進められております。これに伴い、自動化・遠隔化技術、ICT施工、カーボンニュートラル対応など、新たな技術革新への対応が求められております。

一方で、少子高齢化に伴う担い手不足や技能者の高齢化が進み、長年現場で培われてきた技術やノウハウを、いかに次世代へ継承していくかが大きな課題となっております。

このような課題に対応していくため、近年急速に発展している大規模言語モデル（LLM）をはじめとする生成AI技術は、作業船業界においても新たな可能性を有していると感じております。これらの技術は、設計・施工計画、維持管理、安全管理等の高度化のみならず、ベテラン技術者の知見や経験の蓄積・共有を支援し、技術継承を円滑化する手段としても期待されております。

幸いにも、弊協会には、造船、船用機器、港湾・海洋建設など、幅広い分野の会員の皆様が集っておられます。それぞれが長年培ってこられた技術力や経験に加え、こうした新たな技術も視野に入れながら、有機的な連携をさらに深めるとともに、技術継承や人材育成にも取り組み、社会の要請に応えつつ、我が国の港湾・海洋分野の発展に貢献してまいりたいと考えております。

微力ではございますが、協会の発展と作業船業界のさらなる振興のため、誠心誠意努めてまいり所存でございますので、会員の皆様方の引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。